

秋の叙勲

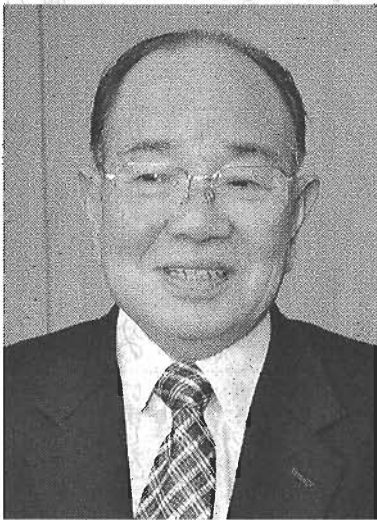
伊豆地区の受章者

夜通し車走らせて修理

「受章に大変驚いた。家内(聡子さん)や従業員の助け。とても感謝している」と話した。

旭日小綬章
(船舶無線)
元全国船舶無線工事協会会長

東京生まれ。小学校2年の時、戦時疎開で母の美家がある函南町平井へ来て永住。県立沼津工業高校を卒業後、電器店に就職。1年後、無線通信士の資格を取り漁業用無線機販売・検査会社へ、19年勤務し独立した。全国船舶無線工事協会(全工協)では、東海支部副支部長、支部長を歴任、2007年4月から4年間、会長を務めた。現在は相談役。担当船舶は大小約100隻。無線機だけでなく、レーダーや魚群探知機など電子機器すべてを扱う。「故障の連絡があれば、どこへでも駆けつける。福島・小名浜港、千葉・銚子港に夜通し車を走らせたこともあった」全工協は「次男(俊治さん)らに任せられるから専念できた」。会長就任時から取り組んだ一般社団法人化にめどが付き、安心したという。東日本大震災では宮城・気仙沼の仲間多数が被災した。「大変心を痛めている。中古の検査機器を送ることを考えている」趣味はカメラ。機関誌新年号の表紙を、富士山の作品で26年間飾った。「いろいろなお所から撮ったが、やはり函南からの富士山が一番」。



函南町柏谷

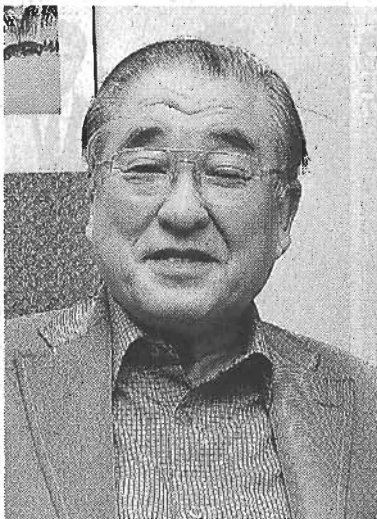
石井 孝氏(74)

「薬食同源」を提唱

瑞宝中綬章
(教育研究)
元静岡県立大学長

薬品代謝化学の分野で数々の学術的功績を残した後、静岡県立大学長や県学術教育政策顧問として大学行政の発展に力を注いだ。「環境と立場に恵まれた結果。楽しい研究生活を送り、勲章までもらうなんておこがましいほど」控えめに語る。大学受験を控えた10代の頃に肺炎を患い、当時の特效薬に救われた経験が原点。東大薬学部を卒業後、1976年から同部教授。薬品の体内変化を分子レベルで解析する方法を確立し、体内と同様の代謝を行う人工触媒の創製にも成功。日本薬学

会賞を受賞した。「新しい分野開拓は抵抗も多い。認められた瞬間の喜びこそ、研究者の生きがい」定年後、静岡県立大学の第3代学長に就任。この大学でしかできない「オンライン」を自指そうと「薬食同源」を唱え、21世紀COEプログラムなどのプロジェクト探求を実現、学術的地位向上に大きく貢献した。学長退任後、石川嘉延前県知事の要請で県学術教育政策顧問に就任し、人材育成に力を発揮。現在は県公安委員のほか、幼児教育の全国組織でも役員を務める。人づくりの信念は「個性や特徴を見つけて伸ばしてあげること」で、大学生でも幼児でもまず褒めることがモットー。千葉県出身。



熱海市伊豆山

廣部 雅昭氏(75)

瑞宝小綬章

定座 授学森 畑を集 に尽力 上司、 を担う こと、 ぶ教育 下田 卒業生 マンモ 取、伊 べんを 初め